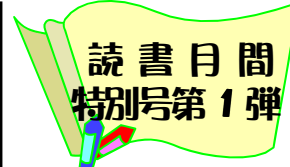




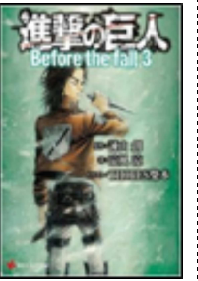
図書館だより



図書委員会から今年第一回目の図書館だよりをお届けします！6月は「読書月間」です。クラスによっては、学級文庫として、クラス用に本の貸出しも行われています。本がもっと身近になるといいですね。そんな考えのもと、今号は3年生の図書委員から皆さんに「お薦めする本第1弾」をご紹介します。ぜひ、読んでみて下さいね☆

3-6 埴 隆人

『小説 進撃の巨人～Before to fall』涼風 涼著
巨人に捕食される人類は、壁の内側で暮らしていたが、主人公アンヘルは巨人に対抗するため、ある装置を開発していた。原作となる漫画で描かれる時代の前にあたるこの小説版では武器についても詳細に書かれていて、先に読んでみても面白いかも…。



3-1 大里 紗希

『女子中学生の小さな大発見』 清 邦彦著



とある私立中学校で、実際に生徒が提出した「自由研究」をまとめた一冊です。あまりに身近すぎる研究にクスッと笑ってしまいます。しかし、読んでみれば、そんな小さな発見が、勉強との向き合い方を教えてくれるはずです。

3-6 渡部 裕介

『患者のエンドロール』 米澤 穂信著



「映画の結末を見つけ出してくれ」と古典部に依頼が来た。文化祭に出展するクラス制作の自主映画の結末が謎解かれぬまま尻切れトンボで終わっていたのだ。千反田えるたちは結末探しに乗り出した…。古典部の面々は結末に辿りつけるのか？推理劇をご堪能ください。

3-7 大部 亮

『月の珊瑚』

奈須きのこ著

西暦3000年。世界が滅亡した中で、生き残った人々が住む島（コロニー）での物語。その島の少女と島の外から来た小さな人の物語である。「かぐやひめ」をモチーフに、少女と小さな人の出会いが描かれていて静かでありつつも、ちょっぴりロマンチックです。



3-3 朝日 扇

『心を整える』長谷部誠著

心は、よく「鍛える」「磨く」と表現されるが、『心は「整える」ものだ』と



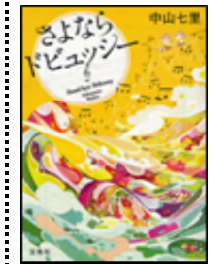
サッカー日本代表キャプテンの長谷部は言っている。中学、高校と目立つ選手ではなかった彼が、日本代表選手になるまでどういった努力があったのか。誰が読んでも勉強になる。

3-2 瓦吹 弘樹

『さよならドビュッシー』

中山七里著

ピアニストを目指す遙、祖父と従姉妹とともに火事に遭い、遙だけ生き残ったが全身に大火傷を負う。それでもピアノのレッスンに励むが、周囲で不吉な出来事が次々と起こり……。題名をみると音楽に関する物語かと思うが、殺人事件まで発生するというミステリー。第8回「このミス大賞」受賞作品です。



3-1 遠藤 榛夏

『罪と罰』 ドストエフスキー著

その他大勢のために、たった一人を殺すのは罪か—主人公ラスコーリニコフはケチな金貸しの老婆を殺す。完全犯罪のはずが・・・？



この話は主人公ラスコーリニコフと共に読み手も迷いながら成長していける物語です。

3-5 加藤 綾

『天音。』 EXILE ATUSHI 著



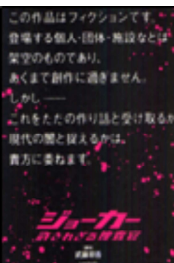
「衣装のまま会場を出て五分後にはホテルの部屋に戻っていた。耳が痛いほどの静寂・・・」等とATUSHIの心の声が物語となっている。ATUSHIの出会い別れ、そして自身の心の声などを素直に正直に書いてある本です。

3-5 小坏 勇汰

『JOKER 許されざる捜査官』

木俣 冬著

昼は温厚な刑事、伊達一義のもう一つの顔。それは法で裁くことのできない犯罪者に鉄鎚を下す制裁者だった。お前に明日は来ない。ドラマの原作ですが、人が人を裁けるのか、伊達は正義か悪かという深いところが見所です。



3-4 猿渡 彩加

『星空』 流奈著

13歳の中学生ルナは、ケンカに明け暮れ好き放題に生きていたが、彼氏の暴力と裏切りに傷つき誰も信用できなくなっていた。そんなルナの前に年上の翼が現れ、癒されたルナは更生を約束し幸せをつかみかけるが……。ルナの孤独に共感です。



3-4 富岡 香奈

『カラフル』 森絵都著

一度死んだ主人公が、あの世で抽選に当たり、さえない中学生としてもう一度人生をやり直す物語です。この本は、みんなによく読まれていて、特に中学時代に読んだ人が多く、人気のある小説です。



3-3 小室 勇貴

『日本男児』 長友佑都著



今、国内外で活躍している長友選手がプロサッカー選手になるまでの道のりと現在について書いてあり、勇気をもらえる一冊。どんなに難しく高い目標であっても、努力と考え方、取り組み方次第で夢に近づく事が出来ると伝わってきます。

3-2 星 一貴

『スカイ・クロラ』

森博嗣著

飛行機に乗るのが日常、人を殺すのが仕事。空で人を殺した手でボウリングもする。戦争がショーとして成立する世界での子供達の寓話。世界観が分かりにくいですが、想像力を働かせて読んでほしい。先に映画を見て、あとから小説を読むのもいいかもしれません。



3-7 横山 咲愛

『死にぞこないの青』 乙一著

嘘をついたマサオは、大好きだった担任の羽田先生から嫌われてしまう。先生とクラスメートからいじめられるようになったマサオの前に、「死にぞこない」の男の子が現れて…。マサオと「死にぞこない」との関係が面白く、執拗に自分を追い詰める先生との対峙に注目。

